

J A 東旭川水稲栽培暦(有機)

| 月・旬 | 3月 | | | 4月 | | | 5月 | | | 6月 | | | 7月 | | | 8月 | | | 9月 | | | 10月 | | |
|-----|----|---|---|----|---|---|----|---|---|----|---|---|----|---|---|----|---|---|----|---|---|-----|---|---|
| | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 |

生育経過と水管理

浸種 は種 **出芽**

- 水温11~12℃
- 1日おきに水交換
- 最長で、9日以内

除草作業 **移植** **幼穂形成期** **出穂期** **成熟期**

融雪剤散布 **冷害危険期** **雪上心破(サブソイラー)**

水深: 10cm, 5cm, 3cm, 5cm, 8cm

前歴期間 深水かんがい 浅水 間断かん水

出穂後25日間は落水しない

中干し

ワキ防止

低温時は深水

初期分けつ促進

中干し

やや深水

水温の上昇

中干し

畦草の刈取・搬出で耕理的防除に努めよう

秋起こしを実施し、メタンガス抑制に努めよう

土壌分析を行いましょ

適期収穫 玄米による刈り取り判断

排水対策に努めよう 溝切り・稲わら収集

主な作業とポイント

土壤診断結果から施肥設計を行い、不要な化学肥料使用抑制に努めよう

畦塗りの実施

基肥・堆肥散布

栽植密度の目安
中苗 80株/坪
成苗 70株/坪

幼穂の確認

葉いもち病の観察・防除

中干しを実施し、メタンガス抑制に努めよう

畦草の刈取・搬出で耕理的防除に努めよう

秋起こしを実施し、メタンガス抑制に努めよう

土壌分析を行いましょ

適期収穫 玄米による刈り取り判断

排水対策に努めよう 溝切り・稲わら収集

雑草・病害虫防除

ボート前処理剤散布

無人ヘリ除草剤一発剤散布(粒剤)

透排水の悪い水田

農作業事故は万全な注意を!!

秋の溝切り

溝きり作業

稲わらの搬出

走り水管理

中干し

入水・間断かんがい

走り水

幼穂の確認

葉目間長の観察

出穂の確認

穂かがみの確認

水深: 20cm, 10cm, 5cm

| 日数 | 幼穂形成期 | 5日目 | 10日目 | 13日目 | 16日目 | 20日目 | 25日目 | 出穂後 | 25日目 | 50日目 | |
|--------|-------------------|-------------------|--------|------------|-------|------|------|-----------|------|------|-----|
| 发育段階 | 始原体分化期 | 枝こころ分化期 | えい花分化期 | 減数分裂期 | 花粉充実期 | 出穂遅延 | 出穂期 | 乳熟期 | 糖熟期 | 黄熟期 | 成熟期 |
| 低温の影響 | 花粉の分化減少 | | | 花粉の進化・发育不全 | | 出穂遅延 | | | | | |
| 有効分けつ期 | 幼穂形成期 | 幼穂伸長期 | | | 穂ばらみ期 | | | 登熟期 | | | |
| 水管理 | 前歴期間 耐冷素質を強くする | 冷害危険期間 不稔を防止する | | | 中干し | | | 入水・間断かんがい | | | |

- 前歴期間…水深は10cm、平均水温21℃以上
- 冷害危険期間…水深は18~20cm
- 根の活力を向上させる
- 排水不良田では作満して表面水を早期に排除する

成苗ポットの置床鎮圧育苗法

補植用苗はいもち病発生の原因

中干し(6月中・下旬)

走り水管理

溝きり作業

稲わらの搬出